

『最後のチャンス』～金融にも地球温暖化の影～

河口真理子 (SIF-Japan 運営委員、株式会社大和総研)

vol.38

昨年あたりから、SRIが日本で本格的に立ち上がる気配を感じていたが、春(空の天気は不順だが)になり急速に芽があちこちで育ち始めたのを感じる。私の身边だけでも、4月になり突然今までほとんどコンタクトのなかった機関投資家むけの営業部門と個人営業部門から、それぞれ運用機関向け、個人顧客向けセミナーで、温暖化問題について話して欲しいという依頼が立て続けにあった。さらに、ロンドンでの機関投資家向けセミナーでは日本企業の温暖化対応についてのプレゼンをしてほしいと。

この異常気象が影響してか、温暖化問題をまじめに議論する空気が金融の現場でも広がってきた。特に温暖化については、従来の『金融は製造業ではないから環境問題とは無縁』という意見は急速に息を潜めている。それだけ、不幸なことに想像力をめぐらさなくても温暖化による異変を肌で感じる人が増えているのだろう。

お金を運用すれば、必ず社会的な影響が生じる。今まで金融機関はそのことを知らなかったのか、知る必要がないと思っていたのか、はたまた自分の仕事ではないと考えていたのか、金融の仕事は金融(つまりバーチャルな世界)完結する、というスタンスをとってきた。しかし、実際に金融のあり方すなわち、お金の流れ方いかんで、社会は破滅にも持続可能な社会にも舵をきることができる。

温暖化問題の関係者は、今が最後のチャンスという。ノアの箱舟で、神様はノアに人々が悔い改めるよう3回チャンスを与えた。不幸にしてそのチャンスを当時の人々は生かすことができなかった。今まさにその最後のチャンスが与えられているのかもしれない。このチャンスを逃すとあとはない。そのことを肝に銘じていきたい。

